



東京都立墨東病院

連携だより

発行 東京都立墨東病院 事務局医事課
〒130-8575 東京都墨田区江東橋4-23-15
TEL: 03-3633-6151(代表)
<http://www.bokutoh-hp.metro.tokyo.jp>

VOL.48

医療連携で実現する、最高の医療圏をもとめて

江東区は南北に長く伸びた形で、東の方面は、亀戸天神で有名な亀戸地区から明治通りや丸八通りで南の砂町地区へ拡がり、西の方面も、かつて区役所のあった森下地区から三つ目通りで南の深川へと拡がり、八幡様お不動様をはじめとして随所に昔ながらの面影を色濃く残しています。両エリアともさらに東京湾を埋め立てて、新砂、新木場から若洲リンクスト、枝川、東雲、豊洲、有明から中央防波堤へと広大な空間が拡がります。



江東区医師会会長
岡本 克郎

人口も急増しており、東西の両エリアにあったそれぞれの医師会が合併し、現在の江東区医師会として発足した平成10年には37万人、それから16年弱経過した今は48万人を超えています。当然のことながら、日常生活には衣食住などのすべてが必要で、同時に保育園、学校などと共に十分な医療サービスも必要です。

今の日本は、医療への自由アクセスが認められていますので、小回りの利く開業医から、中小の病院、大型の検査機器や高度な医療が可能な巨大病院とが混在し、それぞれ、必要な医療サービスを提供しています。我々医師会員に限らずすべての医療者の願いは、患者さんが回復し元気になり笑顔になることです。墨東病院は道路ひとつはさんだ墨田区にありますが、我が江東区からの受診も多く、我々江東区医師会としても貴重かつ有力な病院として頻繁にお世話になり、積極的に連携を図っております。疾病の性質上やむを得ないことながら経過良好である疾患もあれば難しい疾患もありますが、少なくとも連携の勝手による人為的なトラブルは可能な限り避けるべきと肝に銘じております。

これまで、墨東病院と我々江東区医師会とで、定期的に委員会を開いて、スムーズな連携を実現する心がけてきました。患者さんにも、あそこまで行けば墨東病院が有るんだよ、と胸を張って説明してきましたが、混雑してる外来を軽いことで受診してさらに混雑させてもあまり意味は無いんだよ、とも説明してきました。さらに、可能な限りかかりつけ医からの紹介状（情報提供書）を持って受診すべきで、これまでの経過や検査に関する情報なしでいきなり他の医療機関を受診しても却って医療の連続性が失われ、長期的に見た医療の質が低下するかもしれないことも説明してきました。引き続き良い連携が取れる様、努力を続けようと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

消化器内科



内科医長
浅野 徹

現在、墨東病院の消化器内科は独立した診療科ではなく、内科の一領域グループとして活動しています。藤木、忠願寺両部長の元、常勤医5名、非常勤医6名およびローテート中の初期・後期研修医が日々の診療にあたっています。日本消化器病学会専門医6名（指導医2名）、日本消化器内視鏡学会専門医6名（指導医3名）、日本肝臓学会専門医3名（指導医1名）、日本胆道学会認定指導医1名、がん治療認定医（申請中）2名と、数年前と比較すると陣容も徐々に充実してきた感はありますが、それを上回る患者数の増加で日々の診療に追われています。

外来は水曜日を除き毎日3名以上の医師が担当しています。連携枠は週39枠あり、その他に患者さんご自分で予約をとっていただく初診枠が週19枠あります。再診患者さんを含め、基本的には予約患者さんを優先して診療していますが、緊急患者さんに対してはERと連携して適宜診療を行っています。紹介状のみを持参される患者さんよりも連携枠で予約していただいている患者さんの方が若干優先されることからなるべく連携枠をご利用いただきたいと思っておりますが、急を要する患者さんの場合はこの限りではありません。

診療内容としては忠願寺部長が肝疾患を専門として診ていますが、それ以外の医師は消化器全般の診療を行っております。この中で古本医師は特に内視鏡的粘膜下剥離術（ESD）に力を入れており、当科でのESD件数も62件（平成23年）、87件（同24年）、110件（同25年）と着実に増加しております。適応患者さんがいらっしゃいましたら積極的にご紹介いただけますと幸いです。

外来患者さんの内訳としては胃十二指腸潰瘍150例、ヘリコバクターピロリ菌関連胃炎100例、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）170例、慢性膵炎40例、胆石症・総胆管結石100例、B型慢性肝炎（キャリアーを含む）250例、C型慢性肝炎（治療後のフォローアップも含む）380例、自己免疫性肝炎50例、原発性胆汁性肝硬変50例、アルコール性肝障害40例、非アルコール性脂肪肝（NASH）20例、肝硬変（ウイルス性、アルコール性など全てを含む。肝臓癌例は除く）230例となっています。また悪性腫瘍の患者さんもますます増加しており食道癌30例、胃癌140例、結腸・直腸癌70例、肝臓癌70例、膵癌30例、胆道癌20例となっています。外来で化学療法を施行する患者さんも増え、今後外来化学療法室

の拡張も予定されております。しかし、化学療法の専門家になるべく昨年1月より半年間、愛知県がんセンター中央病院薬物療法部に国内研修に行っていた村山医師が3月末で急きょ退職することとなり、今後の化学療法を担っていく人材の育成が急務と考えています。

平成25年の消化器内科への入院は1945名で1日平均入院患者数57.7名、平均在院日数10.8日でした。入院経過としては予約入院は1009名（51.9%）、残りの936名（48.1%）が緊急入院でした。緊急入院のうち救急搬送された患者さんが324名（34.6%）と、やはり地域医療の中での救急病院としての役割も大きいものと実感しております。緊急入院となった疾患としては出血性胃十二指腸潰瘍、下部消化管出血、総胆管結石や悪性腫瘍による閉塞性黄疸／閉塞性化膿性胆管炎、急性肝障害／肝不全が多く、この内訳には以前と大きな変化はないようです。一方で化学療法目的での入院患者さんが444名と全入院の22.8%を占めており、外来同様に化学療法の比重が増加してきているのが最近の傾向と考えています。C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療導入に関しては年間約50～60名程度で推移していますが、近年プロテアーゼ阻害剤の出現により治療効果は大きく改善されており、また今後は経口薬のみによる治療も保険適応となることが見込まれており、治療適応もやや変わってくるのではないかと予測されます。しかし地域にはまだまだ多数のC型肝炎感染者が潜在していると考えられていることから、HCV抗体陽性の患者さんがいらっしゃいましたら肝酵素上昇の有無にかかわらず一旦ご紹介いただけますようお願いいたします。また、最近の問題として救急搬送された患者さんが社会的事情などにより退院できず、病床上に空きがないということがあります。新たな救急患者さん、重症患者さんを受け入れるためにも近隣の病院と今まで以上に密に連携を取っていければ、と考えております。

消化器内科はこれからも救急疾患、慢性疾患、悪性腫瘍全ての疾患領域において地域の一員として城東地区の医療の役に立てよう努力していく所存であります。来年度には墨東病院内の当科のホームページも刷新していく予定であり、こちらでも参照いただけましたら幸いです。引き続きまして今後ともよろしくお願いいたします。



総合診療科

2013年10月より、平日（月曜～金曜午前）に当院の振り分け外来として、総合診療科外来部門の診療を開始しました。当科外来は、症状からどの診療科を受診したらよいかわからない初診の患者さんや、当日予約外で来院された初診の患者さんを中心に診療を行っています。また、連携の先生方が当院の各診療科へご紹介いただいた患者さんの中で、既存の臓器別診療科での対応が難しい患者さんも、当科で診療させていただく場合もあります。

具体的には、「発熱が続くが原因がはっきりしない」、「最近、体重が減ってきた（増えてきた）」、「症状は軽いが、重い病気かもしれないので心配だ」、「倦怠感や疲労感が続く」といっ

たような患者さんを診療しています。必要に応じて、院内の各専門診療科への相談や紹介をしています。

近隣の連携医療機関からご紹介された患者さんは可能な限り受け入れるようにし、迅速な対応が行えるよう努め、結果ご報告や御返送を致します。

新任で未熟であるため、連携の先生方にもご指導いただく機会も多くなると存じますが、「地域医療機関と当院各専門診療科の橋渡し役」としてご活用いただけたら幸いです。よろしくお願い申し上げます。

総合診療科医員 阪本 直也

放射線治療再開のお知らせ

放射線治療システムの更新工事のため、地域の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、平成26年4月の第1週から、新システムにより放射線治療再開の運びとなりました。

新システムでは、Varian製の放射線治療装置 Clinac iX RapidArc、放射線治療計画装置 Eclipse、東芝製シミュレーション CT 装置 Aquilion LB を導入し、画像誘導放射線治療 (IGRT)、定位放射線治療 (STI)、強度変調放射線治療 (IMRT) などの高精度放射線治療を実施することが可能になりました。患者の負担を軽減すると共に、呼吸等により動く患部に対しても照射精度の向上や患者スループットの向上が図れる治療機器です。また、治療計画システムは Aquilion LB と Eclipse となり、より優れた線量分布の作成が可能になりました。高精度

放射線治療については、安全な実施体制を構築し、順次実施する予定です。

機能を温存しながら良好な治療効果をあげる、副作用の少ない放射線治療を提供できるようになり、がん治療の3本柱の一つとしてさらにお役に立てると、スタッフ一同考えております。従来通りにお申し込みいただければ、放射線治療方法は適宜判断させていただきます。お気軽にご相談下さい。よろしくお願い致します。

なお、核医学 (RI) 検査は、現在も行っておりますので、ぜひご利用いただきますようお願い致します。

診療放射線科 放射線治療専門医 張 大鎮

連絡先：03 (3633) 6151 (内線) 2325



放射線治療装置
Clinac iX RapidArc



シミュレーション CT
Aquilion LB

❖ 平成26年度 区東部医療圏地域医療講演会 ❖

平成26年度の区東部医療圏地域医療講演会を下記の日程で開催いたします。
講演会の参加につきましては、事前申し込み及び参加費は不要です。多数のご参加をお待ちしております。

日時／場所	演題	講師	主催医師会
5月14日(水) 午後7:30～ 墨東病院 14階A講堂	日常診療に必要な小児整形外科の知識	墨東病院 整形外科部長 金井 宏幸	江戸川区医師会
6月11日(水) 午後7:30～ 墨東病院 14階A講堂	脳梗塞、かかりつけ医の役割	墨東病院 内科部長 藤ヶ崎 浩人	墨田区医師会
7月9日(水) 午後7:30～ 墨東病院 14階A講堂	日常診療で見逃しやすい骨折	墨東病院 整形外科部長 金井 宏幸	江東区医師会
9月10日(水) 午後7:30～ 墨東病院 14階A講堂	輸入感染症	墨東病院 感染症科部長 大西 健児	江戸川区医師会
10月8日(水) 午後7:30～ 墨東病院 14階A講堂	肝胆膵がんの早期発見のために	墨東病院 外科医長 脊山 泰治	墨田区医師会
11月12日(水) 午後7:30～ 東武ホテルレバント東京	未定		江東区医師会

* 止むを得ない事情により予定を変更・中止する場合があります。詳細については主催医師会さまへご確認のうえ、ご来場ください

墨東病院人事異動

【採用】平成25年12月1日付

産婦人科医長 兵藤 博信 ひょうどう ひろのぶ
産婦人科医長 砂川 空広 すながわ そらひろ

【採用】平成26年1月1日付

産婦人科部長 久具 宏司 くぐ こうじ

【兼務】平成26年1月15日付

小児科医長 吉橋 博史 よしはし ひろし

【転出】平成26年2月1日付

産婦人科部長 品川 寿弥 しながわ としや

【退職】平成25年12月31日付

産婦人科部長 林 瑞成 はやし ずいせい
新生児科医員 高野由紀子 たかの ゆきこ

【退職】平成26年1月31日付

産婦人科医長 武内 務 たけうち つとむ
産婦人科医員 佐久間さき さくま さき

増改修整備事業の進捗状況について



24年3月より始まった当院の増築工事も順調に進行し、本年8月の新棟オープンに向けネジを巻きなおしております。

完成した新棟には、より機能を強化した「東京ER・墨東」や、新興感染症等のパンデミックに対応した感染症科、再整備した外来化学療法室を移転する予定です。

工事及び移転に伴い、地域の医療機関の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解、ご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

紹介予約のご案内

当院の受診は救急の場合を除き、紹介予約制を原則としています。

電話予約センター

TEL:03(3633)5511(直通)
受付時間 午前8:30～午後5:00

診療放射線科検査予約

MRI・CT検査 TEL:03(3633)6191(FAXと兼用)
RI検査・放射線治療 TEL:03(3633)6192(FAXと兼用)
受付時間 午前9:00～午後5:00

問い合わせ先

医事課「医療連携係」 TEL:03(3633)6151(代表)内線2115
FAX:03(3633)7130

緊急の場合

緊急の場合は必ずご一報下さい

月～土 午前9時～午後5時

TEL:03(3633)6151(代)
当該診療科の救急当番医師

夜間、休日

TEL:03(3633)6151(代) ER担当

三次救急

TEL:03(3633)6151(代表)
救命救急センター